

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0990800054		
法人名	医療法人社団友志会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎		
所在地	栃木県小山市小山111-1 (電話) 0285-31-0255		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年1月13日	評価確定日	平成21年2月3日

【情報提供票より】(平成20年12月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤7人(うち兼務2人), 非常勤1人, 常勤換算6.55人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理美容代—1,500円</li> <li>・おむつ代—84円/1枚</li> <li>・日常生活品費—333円/1泊</li> <li>・パット—52円/1枚</li> <li>・リハビリパツ—168円/1枚</li> </ul>	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(平成20年12月30日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 83.6歳	最低	77歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小山市市民病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、隣町で既にグループホームを運営している法人が市の公募で選定されて立ち上げた開設2年目のグループホームである。同じ建物内で小規模多機能型居宅介護事業及び認知症対応型デイサービスを実施しており、職員の連携体制も充実している。特に医療面の支援では、かかりつけ医(法人の医師)の週1回の往診や看護師等の助言など力を注いでいる。職員の話し方、態度、動きからは、入居者と共に生活をつくっている様子が見受けられ、入居者の表情も穏やかであった。入居者一人ひとりが自由な生活を送っているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果については運営推進会議で報告し、参加者から意見を収集し職員ミーティングで話し合いを行った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員を2人一組に分け、職員全員で取り組み、話し合い、最終的に管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族の代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらい、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの活動状況を報告し、参加者から意見や助言をもらって運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム内に入居者の日頃の様子を写した写真が多く飾っており、家族が訪問した際に暮らしぶりなどを報告している。体調が急変したときは電話で連絡している。預り金は個々人の出納帳のコピーを利用料の支払時に確認してもらっている。職員の異動があった時は家族会で説明している。家族会は年2回開催され、そこで家族の意見等を得られている。管理者が苦情・相談の窓口になっており、市、国保連の窓口と共に重要事項説明書に明示している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、本年度は班長を担っており、回覧板まわし、ゴミの収集、避難訓練への参加など地域の一人として積極的に取り組んでいる。近隣に保育園や小学校があり、定期的に交流がある。また、建物内に地域交流スペースを設け、ボランティアや地域の会合等に利用できるよう開放し、利用されている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりのライフスタイルを大切に、その人らしく、今まで築き上げた土台を崩すことなく生活を送っていただけるよう支援することを理念としている。	○	近隣の住民や自治会の関連機関等の交流を通して地域の中で共に支え合う関係づくりを大切にしているので、地域密着型サービスとしての当ホームの独自の理念を検討していくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りや日々のケアの中で、また月1回のミーティングでホームの大切にしていることを確認している。また、毎月交替で職員目標を立て、ホーム内に掲示している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、本年度は班長を担っており、回覧板まわし、ゴミの収集など地域の一員として積極的に取り組んでいる。近隣に保育園や小学校があり、定期的に交流がある。また、建物内に地域交流スペースを設け、ボランティアや地域の会合等に利用できるよう開放し、利用されている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価については運営推進会議で報告し、参加者から意見を収集し、職員ミーティングで話し合われた。今回の自己評価は職員を2人一組で分けて全員で取り組み、話し合い、最終的に管理者がまとめた。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらい、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの活動状況を報告し、参加者から意見や助言をもらって運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームから情報提供をしたり、困ったときに相談し、助言をもらいながらサービスの質の向上に活かしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム内に入居者の日頃の様子を写した写真が多く飾っており、家族が訪問した際に暮らしぶりなどを報告している。体調に変化があった時は電話で連絡している。預り金は納帳を作成して利用料支払時に確認してもらっている。職員の異動があった時には家族会で紹介している。	○	多くの写真をホームに飾っていることから、家族への報告の機会を増やすという意味でも、それらを活用しながら「ホームだより」の作成・配布を検討してみることに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が組織されている。家族会は年2回開催され、そこで家族の意見等をいただいている。管理者が苦情・相談の受付窓口になっており、市、国保連の窓口とともに重要事項説明書に明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内事業所の新設等により、今年は法人内部での異動が4名あった。その際には引継ぎを行って入居者に影響が出ないよう配慮した。今回の異動では入居者のダメージは見られなかった。	○	入居者の重度化も念頭に、入居者との馴染みの関係を維持することで精神的な安定を図るためにも運営者等とも職員の異動等のあり方について検討していくことに期待したい。

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修が2ヶ月に1回の割合であり、ホーム職員も参加している。外部研修は希望をとり、管理者が参加を決め、出張扱いで参加している。参加後は報告書を作成してミーティング等で報告会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入している。他事業所からの見学を受け入れたり、電話等で情報交換したりしている。隣町に法人のグループホームがあり、連携して質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人・家族に見学に来てもらうようにしている。入居当初は本人が不安なくサービスを受けることができるよう家族等とも話し合いを重ね、また入居者間に関係づくりに配慮して徐々になじめるよう配慮して支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や洗濯物干し、畑仕事など、入居者のできることを勘案しながら一緒に生活をつくっていくことに努めている。また、職員が入居者に昔の遊び、お手玉、福笑い等を教わったりしながら、支え支えられる関係を築いている。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活暦や特技などを聞き取り、個人別に台帳にまとめている。職員の気づきなどを話し合いながら、入居者個々の思いや意向を把握し、入居者本位の生活が支えられるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞き、また本人の心身の状態を踏まえて、職員の気づきも取り入れながら、職員数名でチームを組み、介護計画を作成している。医療依存度の高い方に関しては、医師の助言なども踏まえて計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは半年を基本としているが、状態の変化が見られた場合には本人・家族と話し合いをし、職員とも話し合ったうえで新たな計画を作成している。作成した計画については家族の同意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。法人内の病院からの定期的な往診もあり、医療的な処置が必要であってもホームでの生活を支えられるようにしている。併設の事業所と一体的な運営をしながら入居者の要望に対して柔軟な対応ができるよう支援している。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を十分に聞き、かかりつけ医での適切な医療が受けられるよう支援している。法人内の病院から週1回往診が受けられる体制になっている。併設事業所の看護師にも相談できる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときや終末期ケアについて指針を作成し、家族に説明、同意をもらっている。ホームでの生活の希望があれば、医療依存度が高まっても支えていく方針を職員間で共有し、そのための体制を整えている。また、法人の作業療法士や理学療法士の助言なども受けて入居者の支援を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重し、言葉かけ・対応に十分注意をはらっている。また個人情報保護規程により、記録等の取り扱いが慎重に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決まっているが、基本的にその他の時間は入居者個々のペースを大切にし、自分らしい生活が送れるよう支援している。訪問時にもリビングで入居者同士お茶を飲んで会話をする姿が見られ、思い思いに過ごしている様子が見られた。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに配慮しながら調理を行っている。献立は栄養士の資格を持つ職員が作成している。入居者と職員と一緒に調理や準備や片付けを行っていた。職員は検食のために1名が同じものを食べ、その他の職員は副食のみ同じものを食していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴支援に対応できるようになっている。基本的には午前10時から午後4時の間で支援しているが、夕方や夜間入浴も可能となっている。それぞれの「あたりまえ」の時間帯に入れるよう入居者の好きな時間に入浴している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の用意やテーブル拭き、畑仕事、買い物、書道等のレクリエーションなど、無理強いないように配慮しながら生活の中での役割、楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回の近隣の公園や保育園への散歩、2ヶ月に1回の外出や外食の機会を設け、戸外に出かけるよう支援している。	○	季節や天候、入居者の希望や気分に応じて短時間でも季節を肌で感じてもらうために日常的な散歩や買い物など外出の機会を増やすことに期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけず、職員の日配り、気配りで鍵をかけないケアを実践している。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自治会長、民生委員等の協力のもと年2回避難訓練を実施している。また、自治会で開催される避難訓練にも積極的に参加している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員が入居者の栄養バランスに配慮して献立を作成し、食事摂取量についても記録化されている。水分摂取については特に記録していないが、適切に摂取できるよう配慮されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差し等についてはカーテンで調整を図り、テーブルには季節の花を飾り、壁の装飾に気を配る等季節感が出されるよう配慮されている。訪問時も年明け間もない時期であり、正月の雰囲気であった。気になる空気の日どみ等もなく、気になるような大きな音もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの物が自由に持ち込まれていた。テーブル、タンス、テレビ等が置かれ、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。